

馬瀬・牛瀬の歴史

馬瀬・牛瀬は、歴史的にも地質的にも重要な意味を持つ自然の造形物であり、その名前は V 字型の岩の形に由来します。

歴史を物語る岩たち

魅力溢れる歴史を伝える岩たち。

右手の岩は牛瀬と呼ばれ、主な成分は砂岩です。これは、岩が過去に、五島列島を成す五島層群の一部であったことを意味します。左手の馬瀬は玄武岩質の岩脈です。五島列島の地表は主に 2 種類の成分から成ります。1 つ目は、五島層群に由来する砂岩・泥岩・砂利です。これらの物質は、日本列島がアジア大陸から分かれる過程で堆積したものです。2 つ目は、地球内部に由来するマグマが冷えて生じた物質です。

ここでは、2 つの岩の構造が隣り合っている姿を眺めることができます。左の馬瀬は右の牛瀬に貫入（貫通）していることが分かります。貫入による影響は牛瀬に見て取ることができます。

「馬」と「牛」の由来

珍しい名前にはそれぞれの歴史が込められています。

数世紀前、福江藩（五島藩）と隣り合う富江藩は、島の天然資源をめぐる対立関係にありました。漁業・狩猟・農業の権益をめぐる争いに決着を付けるため、両者は代表者を送って交渉を行い、取り決めに交わすことにしました。富江藩の代表者は牛で到着し、福江藩の代表者は馬で現れたと伝えられています。両者はこの場所で会合を開き、以後、岩を領地の境界線とすることで合意しました。また、岩から湾を通して近くの小白瀬島に伸びる直線を、それぞれの漁場の境界線とすることで一致しました。今日も、岩は五島市の富江地区と福江地区の境界を示しています。